

りく
な
あ

安原工業団地協同組合会報

YASUHARA INDUSTRIAL PARK
COOPERATIVE SOCIETY
NEWSLETTER
NO. 14

平成 25 年 3 月 1 日発行

2013.3
第14号

発行 安原工業団地協同組合
〒920-0377
金沢市打木町東1400番地
(金沢市異業種研修会館内)
TEL (076) 240-1411
FAX (076) 240-1903

りく
な
あ



新たな発展をめざして

安原工業団地協同組合

理事長 米 澤 卓 也

昨年の政権交代から2ヶ月余、11月には79円台だった対ドル為替は一時94円台に、また日経平均株価は8,600円台から一時11,400円台へといずれも大きく変化しました。今年の流行語大賞はこれで決まり、ともいわれる『アベノミクス』がまだまだ具現化していない中、期待感のみでこれだけの変化が現れるということに驚かされます。年初からいろいろな新年会に参加させていただきましたが、皆さんなんとなく今年は景気が良くなりそうだという雰囲気はありながら足元の業績はいまひとつというのが現実のところだと思います。いわゆる3本の矢といわれる『大胆な金融政策』『機動的な財政政策』『民間投資を喚起する成長戦略』が有効に機能してなるべく早く我々中小企業の業績に反映されるようになって欲しいと心から願います。

そういった中、早くも各企業は従業員の賃金を上げなければならないと言う議論が持ち上がっています。2%のインフレ目標が設定されている中、それ以上の賃金の上昇が必要だという理屈です。現実には物価の上昇はまだ若干先の事ではないかと思いますが現実にならねばたとえ中小零細企業であっても従業員の生活を守るのは企業の責務です。また人材の確保と言う意味でもいやおうなしに求められてくると思います。今年はそういった事を見据えた経営に取り組んでいかなければならないと思います。組合としても出来るだけ多様な事業、情報提供で皆様の企業活動に貢献できるよう取り組んでいきますのでご支援をよろしくお願いいたします。

また当組合では長年の懸案事項である町会からの財政的な自立を来年度の総会にお諮りする事になりました。組合設立時に定められた、『財政的には当初の各企業の支出する出資金は町会より支出され、当面の負担は一切無く、賦課金は町会費の中から町会経由で頂き直接的な経費の賦課については将来的に検討する』という規定を設立17年目のいま見直させていただきたいと思います。

昨年の総会で設置が承認された財政基盤検討会議での数回にわたる議論をふまえ、新たな事業の創設と従来の事業の更なる充実を図り組合員の皆様に納得いただける内容での改定を行ないたいと思います。

具体的には未婚の従業員対象の出会いパーティーの創設や案内看板の新規設置や定期的な更新、ホームページの充実、新年会や各種事業の負担金の軽減などを考えています。また賦課金の基準としては年間3,000円程度を最低額として企業規模に応じて増加させていただければと思います。

今後、組合員の皆様への説明並びにご意見を頂く場を何度も持たさせていただきたいと思いますので是非ご出席をいただきたいと思います。

已年に期待を込めて『新年懇親会』開催



本年も町会と合同で1月8日(火)午後6時30分より金沢都ホテルに68名が参加して開かれました。今年から町会の総会はなく、時間にもゆとりがあり、始めに青木祐香さん(武蔵野音楽大学卒業・林鉄工所ご息女)によるフルート演奏が披露され、お正月らしいピンクのドレス姿の青木さんが「ジュピター」など4曲をゆったりと奏で、落ち着いた伸びやかな音色が会場を魅了しました。

挨拶では、米澤卓也理事長、中田和幸町会長が新年の抱負や取組みを述べ、来賓として出席された山野之義金沢市長が、安原地区を含む西部地域の振興策を力強く語られ、次いで下沢佳充県議会議員、井沢義武市議会議員が挨拶され、西川昇安原地区町会連合会長の乾杯による乾杯で一気にはやかな懇親となりました。

商売の神の使いとも言われる巳(蛇)年にちなみ、またアベノミクスの効果による景気浮上をも期待して、参加者一同笑いの溢れる懇親会を楽しみました。(K.O)



企業経営動向に関するアンケート調査報告

～先行きについては、当面は弱さが残るものの、輸出環境の改善や経済対策の効果などを背景に、再び景気回復へ向かうことが期待される。～

今年度も恒例の組員各社の経営動向調査のアンケート結果が集計されました。

調査企業は全組員 191 社のうち 112 社 (58.6%) から回答がありました。調査結果の概要は下記のとおりです。

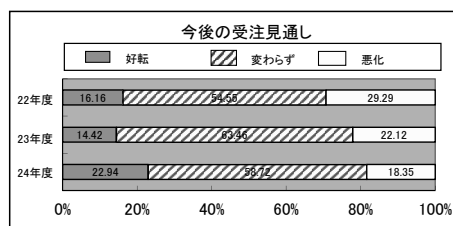
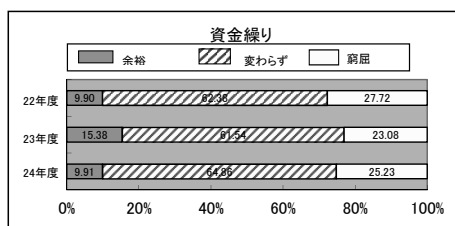
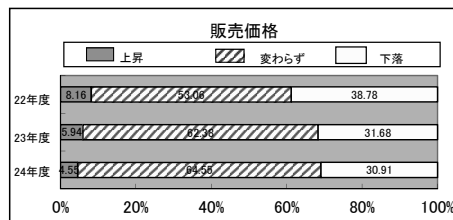
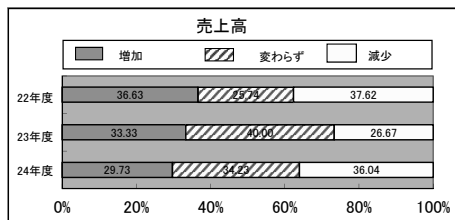
前年度調査と比較して、「売上高」減少「採算性」悪化は昨年度よりポイントが増えている。「仕入価格」が下落との回答が 11.93% (前年度 6.86%) とほとんど変わらず、「販売価格」下落が 30.91% (前年度 31.68%) とやや上昇しているとの回答がよせられた。

なお、現時点での「操業度」100%以上が 22.43% (前年度 27.27%) で減少、また「受注残」は 0.5ヶ月未満が 29.29% (前年度 25.00%) と増加している。「資金繰り」余裕が 9.91% (前年度 15.38%) に減少し、窮屈との回答も 25.23% (前年度

23.08%) と増えていることから厳しい現況が窺える。

後継者については決定済が前年度に比べて増加している。

「今後の受注見通し」について好転と答えた企業は 22.94% (前年度 14.42%) と増加しており、「採算性」及び「取引条件」の好転の数値と併せて判断すると、企業動向は慎重さがみられるものの、一部に改善の兆しもみられる。



市連絡協議会の若手経営者及び後継者研修会に多数参加

平成24年10月22日(月)、金沢市工業団地連絡協議会が大手町のKKRホテル金沢で開催した「若手経営者及び後継者研修会」に、当組合から9名もの有志の出席があり、他の工業団地協同組員とともに研鑽に取り組みました。



講師は、(株)四画面思考研究所の近藤修司氏で、自らが研究開発した四画面思考法による経営・組織の改革実践手法について、事例等

を多く交えてわかりやすく解説していただきました。

四画面思考法とは、「ありたい姿」「なりたい姿」「現状の姿」「実践する姿」の循環で、人間力を向上させ、組織を改革して未来を創る経営戦略法です。近藤氏は北陸先端科学技術大学院大学客員教授であり、石川県の企業、商工会のコンサルティングを多数請けている方です。

研修会終了後は、講師の近藤氏も交えた33名で交流会を開き、異業種間ならびに経営者同士の話題で懇親を深めました。(K.K)

金沢市工業団地連絡協議会・安原工業団地協同組合 合同視察研修旅行 「錦秋の信濃路～精密ものづくりのメッカを訪ねる」旅

平成24年度、合同の研修旅行が11月9日(金)～10日(土)にかけて長野県須坂市・諏訪市などで行なわれました。全参加者24名中、当組合からは米沢理事長以下7名が参加しました。

1日目、午前中は須坂市の「オリオン機械株式会社」を見学しました。この会社は最初酪農関係の機械を作っていたそうで(現在も)、その技術を生かして冷凍機や圧縮機、空調関係の機械を作ってニッチトップを目指しているそうです。

昼食は“峠の釜飯”で有名な「おぎのや長野店」でなつかしの駅弁を食する事ができました。午後は諏訪市に入り「株式会社マイクロ発條」という、文字通り精密、微細なバネを専門に作っている本社・工場を見学しました。最も小さい最微細バネは、半導体検査装置に用いられるものだそうで(外径



φ80μm、線径φ15μmのバネを量産しているそうです。)またボールペンの先端に用いられる精密バネのシェアが、国内70%、世界で約50%だそうです。



両社に共通するのは、国内ニッチトップ企業として技術力に強みを持ち、海外にも中国やアジアに拠点・工場を持っているというところではないでしょうか。その後、宿泊先の上諏訪温泉「RAKO華乃井ホテル」に入り、全員そろっての夕食と共に、懇親の場を持つ事ができました。

2日目は午前中諏訪大社(下社秋宮)～松本城天守閣を見学し、「そば庄あずみ野店」にて昼食後、大王わさび農場～岩の原葡萄園(ワイナリー)を見学し、帰路に着きました。2日間を通じ“小さくとも強い企業”といわれる会社のもつ技術力とそのとり組む姿勢を若干なりとも学ばせて頂きました。(N.I)

第8回加賀野菜 源助大根収穫祭

源助大根収穫祭は青年部の活動の中でも特に力を入れて取り組んできた事業です。加賀野菜とは昭和20年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜の中から、現在「源助大根」を含め15品目が「加賀野菜」として認定されています。安原工業団地周辺では「加賀野菜」の栽培が盛んに行われています。青年部としては、「加賀野菜」の認識を深め収穫を通じて地域の発展と交流が活性化することを目的に本事業を始めました。収穫祭では毎回、近隣の園児を招いています。園児たちには収穫を通じて、作物を栽培する大変さや収穫の喜びを知ってもらえれば幸いとの想いがあります。「源助大根収穫祭」は本年度で8回目となりました。こ

れまでミドリ保育園、安原保育園、藤花幼稚園、みどりかわい幼稚園の皆さんにお手伝いいただき、毎回約2000本の「源助大根」を収穫してまいりました。

安原工業団地内の皆様にも少額にてお裾分けし、今では恒例の行事として楽しみにされている方も多いと聞いています。今後いつまで続けられるかはわかりませんが大切な事業として考えています。また本事業にご理解、ご協力頂き畑をお貸し頂きました打木町会長の中林様はじめご協力頂きました皆様にはこの場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(N.K)



地域の防災と減災 ～災害から身を守るため～

当組合の文化講演会が平成24年11月20日(火)午後6時30分から金沢市異業種研修会館で開催されました。講師には金沢市コミュニティー防災士の竹川操枝氏をお招きして講演をして頂きました。防災の意識が高まりつつある今日、



当日は104名が会場を埋めつくしました。

竹川さんは東日本大震災、新潟県中越地震や能登半島地震の炊き出しのボランティアの経験から

防災の大切さを実感し、ご自身でも勉強され広く防災を呼びかけておられます。時折ジョークも交えながら、災害は未然に防ぐことはできないが災害を小さくすることは出来るということで減災の重要さも述べられました。

また身近にあるもので家具に工夫を凝らしたり、アイデアグッズを作られ会場にも展示されました。透明なゴミ袋で簡易レインコートの作り方を教えて頂き、会場のあちこちで、自分で作ったレインコートをかぶり和気あいあいとした雰囲気になりました。

最後に竹川さんは「一番伝えたいことは、日頃から隣近所の人達と仲良くしておくことが大切。そうすることによって災害時にはお互い助け合いの精神が生まれます」と締めくくられました。(M.Y)

青年部 活動報告

9月2日(日)

「ソフトボール大会」

安原小学校グラウンドにおいて安原工業団地協同組合主催、安原工業団地町会協賛にて第33回ソフトボール大会が行われ、設営、運営をさせていただきました。



猛暑の中、白熱した試合が展開され(株)金石製作所が優勝しました。

9月17日(月)

「安原工業団地組合・町会合同ゴルフ大会」

小松市GC ツインフィールズにおいて昨年に引き続き2回目のゴルフ大会及び親睦会が開催され、運営のお手伝いをさせていただきました。



10組40名が参加した中、ハイテクス工業(株)坂東義文さんが優勝しました。

10月25日(木)

「加賀野菜 源助大根収穫祭」

本年度もみどりかわい幼稚園の園児たちと楽しく大根の収穫をすることが出来ました。晴天の中、元気一杯の園児達と共に大根を抜いていき、収穫する喜びを感じていただけた様です。今年度の源助大根は順調に育ち、大きさも程よい感じに成長し、味の方も大変おいしかったし、組合の皆さんにも喜んで頂けたと思います。来年度も行う予定ですのでご協力お願いします。



11月9日(金)～11月11日(日)

「台湾(台北)視察旅行」

親日国である台湾、小松空港からの就航便数が増え、より身近になった台湾の現状を知る目的で視察してきました。(8名参加)



2月16日(土)

「新年会」

平成25年の新年会を香林坊「紅の格子」にて10名の出席で開催致しました。

北村部長の挨拶からはじまり、部員間での情報交換や交流を図りました。

これをもって今年度は無事終了となりますが、日頃からの組合皆様のご理解、ご協力のお陰と感謝しております。来年度もよろしくお願いいたします。

女性部 活動報告

11月14日(水)～15日(木)

「レディース中央会全国フォーラムin福島」

福島県会津若松市に全国から203名が参集し、石川県からも9名、女性部からは大平部長が参加しました。「全国の中小企業の女性経営者が幅広く交流を図ること、東日本大震災による影響は今も深刻で復興の一助となれば」を目的として行われました。一日目は講演と事例発表があり、夜の交流会では有名なフラダンスの熱気と余韻に明日への活力をもらいました。二日目は石川県の参加者で国指定史跡「大内宿」と「野沢民芸品製作企業組合」(写真)を視察し、「ものづくり」の伝承を消したくないという気持ちを強くしました。



緑化推進運動(花いっぱい活動)
春の緑化推進で、幹線道路沿いのプランターに愛らしいパンジー等を植栽してありましたが、11月24日(土)に女性部全員で葉ボタンに植え替えしました。

緑化推進運動(花いっぱい活動)

12月12日(水)、会員各家庭へシクラメンの鉢を1個ずつ配付し、玄関先に彩りを添えていただきました。

3月中旬に、女性部活動でプランターの植え替えを予定しております。よろしくお願いします。

2月15日(金)

第2回研修会は、16名参加で、ヴィラグランディスウエディングリゾート金沢にて、講師は、金沢市藤江で開局されている島田薬局の店主、漢方薬剤師の島田和美さんに漢方のお話や女性特有の病、冷えや、更年期障害、不妊の悩みなど、女性の気になる悩みについてお話をして頂きました。不妊カウンセラーとしても活躍されているそうです。その後 島田さんを交えて親睦会が開かれ和やかに終わることができました。



あとがき

企業人は常に改革・改善に取り組んでいかねば生き残りは果たせません。昨今の柔道女子日本代表の体罰問題も「今までこれで(上手く)やってきた」という奢りがあったのでしょうか。

「今まで通り」ではいけない!と強く思う今日この頃です。(N.I記)

発行責任者 米澤 卓也

編集委員 池野 菊枝、岩上 伸人、大平 邦久
北村 直樹、越野 英司、田中 泰
北川 和男、山口美枝子